

今週の

いきもの広場

① ツマグロオオヨコバイ



「バナナムシ」とも呼ばれます。葉の上や枝では黄色い体が目立ちます。広場では1年を通してよく見つかります。

② トホシテントウの幼虫



成虫

テントウムシのなかまでは珍しく幼虫の姿で冬を越します。この後さなぎになり、成虫になるのは初夏頃。トゲはさわっても大丈夫。

③ ビロウドツリアブ



早春に活動をはじめ、るいきものの一つです。スミレなどの早春に咲く花の蜜を、長い口先(矢印)で吸います。

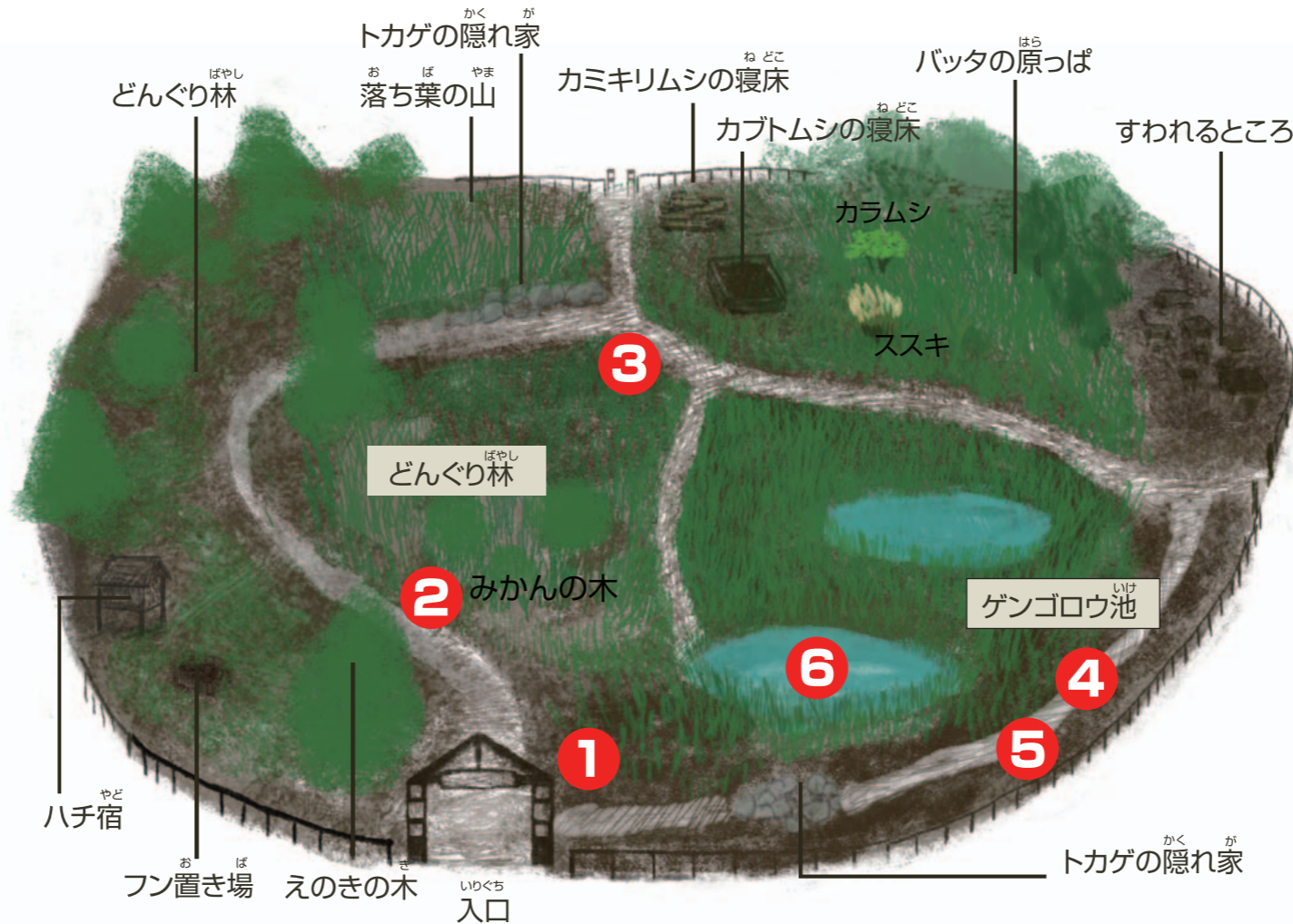
④ クヌギカメムシの幼虫



卵

卵は、秋の終わり頃に樹皮の隙間や枝に産みつけられ、そのまま冬を越します。生まれた幼虫は赤い体をしていますが、成長すると緑色になります。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。4月になり、長い冬を越したいきものたちが動き始め、広場はにぎやかになってきました。



⑥ アズマヒキガエルの卵



成体

3月22日の夕方、アズマヒキガエルの成体が池で確認されると、その翌日には卵が見つかりました。卵は2週間ほどで孵化します。

⑤ ハラビロカマキリの卵鞘



昨年の秋に産みつけられた卵鞘。中の卵が孵化するのは5月頃です。広場には他にもオオカマキリやコカマキリの卵鞘がありますが、突起(矢印)の有無で見分ける事ができます。

広場以外でも
見つかる
春のいきもの

写真は正門近くの花壇で見つけたテングチョウ。花の蜜を吸ういきものが集まる花壇は、いきもの観察の良いポイントです。

